

2 現在無職である女性獣医師の意見

(1) 現在無職である女性獣医師の意見の概要

現在無職である女性獣医師 14 名から寄せられた回答は、以下のとおりであった。なお、回答された 14 名のうち 11 名が 20 代～40 代であり、11 名が既婚者であった。現在、無職である女性獣医師の復職支援に係る検討も今後必要とされることから、14 名の回答について集計を行った。

ア 離職理由

「精神的に疲れる」、「体力的に自信がない」、「技術的に自信がない」、「業務内容に収入が見合っていない」と並び、「結婚」、「妊娠・出産」、「育児」に関する回答が多かった。

イ 現在もなお無職でいる理由

「精神的に疲れる」、「体力的に自信がない」、「技術的に自信がない」、「業務内容に収入が見合っていない」とする離職理由に一致する理由に加え、「家事」、「結婚」、「妊娠・出産」、「育児」が再就職への大きなハードルになっていることが伺えた。一方、「短時間勤務なら可能だが、適当な職場が見つからないから」、「家の近くに適当な職場がないから」との回答があり、再就職を希望している中で、条件に合う職場が見つからない現状が伺えた。

ウ 再就職への意欲

14 名中 12 名が、獣医師としての資格を活用し、獣医学上の知識を必要とする業務に従事したいと回答していた。短時間勤務など条件が合えば復職したいとの回答が多く、家事や育児等との両立を望んでいることが伺えた。

エ 再就職の際に希望する就業形態・職種

再就職にあたり希望する就業形態は、フルタイム 2 名、パートタイム 9 名、アルバイト等の短時間勤務 1 名であり、14 名中 12 名が時間の融通が利きやすい勤務形態を望んでいることが明らかになった。また、希望する職種は、勤務獣医師として診療業務に就業したいという回答が多かった。

オ 再就職のための情報の入手先

主にどこから情報を得るかについては、「知人や友人の紹介・クチコミ」、「大学の就職課やゼミの先生・先輩など」と並び、「獣医療関係のホームページ」、「民間の転職・求人サイト」、「求人側のホームページやチラシ」といった web サイトの情報が重視され、旧来のハローワークや就職情報誌等はあまり参考とされていないことが明らかになった。したがって、情報提供の主軸をインターネットが担っている現代の状況と合致していた。

(2) 現在無職である女性獣医師の意見の詳細

表 1 は、無職である 14 名の離職理由（複数回答可）をまとめたものである。

「精神的に疲れる」、「体力的に自信がない」、「技術的に自信がない」、「業務内容に収入が見合っていない」と並び、「結婚」、「妊娠・出産」、「育児」に関する回答が多かった。

〔表 1〕現在無職の女性獣医師の離職理由

離 職 の 理 由	回 答 数
精神的に疲れる仕事だったから	4
体力的に自信がなかったから	4
技術的に自信がなかったから	3
業務内容に収入が見合っていなかったから	4
自分には向いていない仕事だったから	1
スキルアップやキャリアアップが望めなかったから	1
短時間勤務なら可能だったが、その時の職場では難しかったから	1
時間の融通がきかなかった、休みが取れなかったから	1
家の近くに適当な職場がなかったから	1
他にやりたいことがあったから	0
家事	3
結婚	5
妊娠・出産	6
育児	6
介護	0
その他の事情（夫の転勤、家族の反対、など）	1

さらに、現在もなお無職でいる理由（複数回答可）を表 2 にまとめた。表 1 と同様に、「精神的に疲れる」、「体力的に自信がない」、「技術的に自信がない」、「業務内容に収入が見合っていない」とともに、「家事」、「結婚」、「妊娠・出産」、「育児」が再就職への大きなハードルになっていることが伺えた。一方、「短時間勤務なら可能だが、適当な職場が見つからないから」、「家の近くに適当な職場がないから」との回答も高い数値を示しており、再就職したいが、条件に見合う職場が見つからない現実が伺えた。

再就職への意欲について、14 名中 12 名が獣医師としての資格を活用し、獣医学上の知識を必要とする業務につきたいと考えていた。また、多くは短時間勤務など条件が合えば復職したいと考えており、家事や育児等との両立を望んでいることが伺えた（表 3）。

ちなみに、この 12 名について、再就職の際に希望する就業形態を聞いたところ、フルタイム 2 名、パートタイム 9 名、アルバイト等の短時間勤務 1 名であり、このことから時間の融通が効きやすい勤務形態を望んでいることが明らかになった。

〔表 2〕 現在無職の女性獣医師が再就職しない理由

再 就 職 し な い 理 由	回 答 数
精神的に疲れる仕事だから	3
体力的に自信がないから	3
技術的に自信がないから	3
業務内容に収入が見合っていないから	3
自分には向いていない仕事だから	1
短時間勤務なら可能だが、適当な職場が見つからないから	7
時間の融通がきかない、休みが取れないから	2
家の近くに適当な職場がないから	5
他にやりたいことがあるから	0
家事	6
結婚	3
妊娠・出産	4
育児	7
介護	0
その他の事情（夫の転勤、家族に反対されている、など）	1

〔表 3〕 現在無職である女性獣医師の獣医師としての復職への意欲

獣医師としての資格をいかした仕事への復職意欲	人 数
すぐにでも就きたい	1
いずれ就きたい	3
短時間勤務など、条件が合えば就きたい	8
就くつもりはない	2

また、復職を希望する職種について調査した結果、複数回答としたことによる回答の分散がみられるが、特に勤務獣医師として診療業務に就業したいという希望が多かった。（表 4）

〔表 4〕 現在無職である女性獣医師が獣医師として復職を希望する職種

復 職 し た い 職 種	回 答 数
自ら開設する診療施設において診療の業務に従事（開設者又は法人代表者）	3
他の者が開設する診療施設において診療の業務に従事	7
自ら往診のみによって診療の業務に従事	2
他の者に雇用され往診のみによって診療の業務に従事	2
農林畜産関係の行政事務に従事	3
公衆衛生関係の行政事務に従事	4
環境関係の行政事務に従事	2
試験研究（大学を除く）	3
獣医系大学で教育に従事（教官又は教員）	0
製薬関係	2
飼料関係	2
その他	1

〔表 5〕 現在無職である女性獣医師が獣医師として復職しようとする際に参考にする情報源

参 考 と す る 情 報 源	回 答 数
獣医療関係のホームページ	10
民間の転職・求人サイト	9
大学の就職課やゼミの先生・先輩など	8
ハローワーク	4
就職情報誌や専門雑誌など	4
求人側のホームページやチラシ	8
知人や友人の紹介・クチコミ	11

先に 1) で述べた結果からは、小動物診療分野での女性獣医師の就業環境の整備が進んでいない現状が明らかとなったが、こうした復職希望者を近在の動物病院が短時間の診療業務で雇用しやすい仕組みがあれば、現在就業中の女性獣医師の労働時間の短縮や出産休暇・育児休暇代替職員の確保等に寄与できると思われた。他の職域分野においても同様に、短時間勤務者が対応可能な業務をピックアップし、復職希望者とのマッチングを円滑に進めることができれば、業務の効率化と復職希望者の就業支援につながる事が期待できる。

また、復職にあたってどこから主に情報を得るのかについては、「知人や友人の紹介・クチコミ」、「大学の就職課やゼミの先生・先輩など」と並び、「獣医療関係のホームページ」、「民間の転職・求人サイト」、「求人側のホームページやチラシ」といった web サイトの情報が重視され、旧来のハローワークや就職情報誌等は

あまり参考とされていないことがわかった（表 5）。したがって、情報提供の主軸をインターネットが担っている現代の状況と合致していた。

（3）自由回答の結果

本調査では、Q18「女性獣医師の就業環境について、現在の職場の問題点や、制度的な改善が必要な部分など、どのような事でも構いませんので、ご自由にお書きください。転職や離職経験のある方は、そのときの状況やほしかった支援策などをお聞かせください。」として自由回答欄を設けた。その結果、1,959 名から回答が寄せられた。この中から、現在無職又は獣医学上の知識を必要としない業務に従事している女性獣医師のコメントを抽出したのが表 6 である。

内容としては、小動物診療施設における労働環境の改善を求める意見や短時間勤務を望む意見、勤務時間や就業地などへの配慮を求める意見等があった。中には、小動物診療と比較して、民間企業や公務員のほうが就労環境が良いという意見とともに、これらのことを大学在学中の学生にもっと伝えてはいかかとの意見もあった。

[表 6] 女性獣医師の就業環境に関するコメント

※回答は原文のまま。

No.	コ メ ン ト	職 種
1	何だかんだ言っても結局は性別による差があると思う。	無職
2	動物病院の診療時間に合わせて働くと勤務時間が長くなりすぎる。 動物病院では残業の代価が払われない事が多い。 公務員になるか開業獣医師と結婚するかしないと必要な育児休業がとれないというのが学生の頃からの定説。	無職
3	給料が安いだけでなく、小動物臨床では社会保険などの制度がきちんと整っていないところが多く、開業しない限り将来における経済的な不安がとても大きい。就業したのち、数年にわたる療養を必要とする病気にかかり、上記の理由から他の安定した業種への転職を選択せざるを得なくなった。	無職
4	短時間の就業で働ける職場が少なく、休みもとれない。	無職
5	小動物の個人病院に勤務していましたが、就労規約があっても実際はその内容のようにはいかないのが当たり前でした。辞める際に一般企業のように有給が消化されることもなく、出産休暇、育児休暇の規約もありましたが、到底とれるようには感じませんでした。	無職

	した。個人病院は事業主である院長の一存で全てが決まるのが当然で、制度を改善しても結局はその通りにはなかなかいかないように思います。	
6	診療所勤務において、小さな子供の育児期間中は保育所への送り迎えなどの時間帯を考慮し勤務時間に配慮して頂けると有り難いです。	無職
7	結婚などの環境の変化に伴い、仕事時間や出勤日数を柔軟に対応してもらえたら助かりました。	無職
8	子育て支援の充実	無職
9	(自身の話ではないですが)都道府県の職員や、農業共済組合など、転勤が多いため、獣医同士で結婚してもなかなか一緒に住めず、何年も別居生活だったり、単身赴任にならざるを得ない状況がけっこうあるみたいでした。結婚した夫婦が、できるだけ一緒に住めるよう赴任地や赴任期間などを考慮してあげてほしいと思いました。 また、女性獣医師が出産休暇や育児休暇を取りたい時に必要なだけきちんととれる体制づくりがもっと進めばいいと思います。 そしてその後(長期間休んだ後でも)復職しやすい環境整備、育児との両立を可能にする待遇措置(例…パートタイム労働の許諾・夜間当番の減免など?)の整備が整うと、仕事を辞めずに獣医として働き続けられるのでいいと思います。	無職
10	獣医師の地域偏在があり、地方では獣医師が少ない。そのため、出産休暇・育児休暇・将来の介護休などを職場に迷惑をかけずに取る事が困難	無職
11	女性獣医師に関する点ではないが、医師のようなインターンやレジデント制度があった方が良くと思う。それが、獣医療全体のレベルアップ(特に底辺の)につながり、大学卒業後数年で一定のレベルに達する獣医師が増えれば、それは女性の場合には、育児などが落ち着いた後の復職がしやすくなるのではないかな。また、個人で経営する零細企業としての診療施設ではなく、大きな組織としての施設が増えやすくなり、男女問わず就業環境の改善につながるのではないかな。	無職
12	育児や出産との両立、また開業などを鑑みると、キャリアプランを考えるのは難しい	獣医学上の知識を必要としない業務

13	公務員では、獣医師の資格を保有していること自体がキャリア形成においてマイナスに働くことが多い。数合わせのための脈絡無い人事異動(業務転換)に巻き込まれる頻度が高く、特に女性は働き方を考えざるを得ない。	獣医学上の知識を必要としない業務
14	小動物臨床をしていたときより労働時間や体力面は民間企業は良いが、偶々入社した会社が男女差別、中途採用者差別のあるところだった為、苦勞している。 小動物臨床にいた時は、残業手当もなく日付が変わっても働き、通勤時間と家でカルテを書くような毎日で、身体を壊した。仕事内容は好きだが余程良い病院でないと長期間働けない。 仕事はつまらなくても企業のほうが給与や休暇など恵まれている。	獣医学上の知識を必要としない業務
15	緊急対応が多すぎ、確実な休日が取りにくい。 獣医師が足らず担当が1人であり、かつ仕事量が多すぎて休めない。特に連日の休みを取ると後始末がより大変になり、取れない。 重たいもの・大きいものなど力が必要な場面が多い。 恫喝する人、気の荒い人等との対応がある。名を名乗るのが不安。 職場が寒すぎる。 出産休暇・育児休暇を取っている人はいるが、介護休暇を取る人がいない。 獣医師のポストではあるが内容はほぼ事務と接客であり、全く学術的でなく仕事内容に魅力がない。 民間製薬企業では制度(介護休暇、在宅勤務可:PC持ち帰り・ウェブ会議・資料検索可、フレックス、給与)と人材(適正FTE、派遣社員による補助)が揃っており、働きやすかった。	獣医学上の知識を必要としない業務
16	小動物臨床における就業環境は、民間企業に比べかなり悪いと思う。卒業して四年経つが、小動物臨床に就職した同期の女性獣医師の半数は退職しているか、民間企業(獣医師の資格を必要としない)に転職している。 私自身、そのような環境に不安を覚え獣医師資格を必要としない民間企業に新卒入社したが、臨床と比べても待遇は雲泥の差であった。	獣医学上の知識を必要としない業務
17	獣医師の就業環境に限ったことではないが、フルタイムでなければ重要な分野での仕事を行うことは難しい職場が多いが、パートタイムや短時間勤務でもやりがいのある仕事を行えるようなワークシェアのあり方を早めに考える必要があるのではないでしょう	獣医学上の知識を必要としない業務

	か。	
18	人手不足のため個人にかかる負担がとても大きい。 休みや自分の予定を立てる自由などが制限されている。 一生続けられるような勤務環境の整備が必要。	獣医学上の知識を必要としない業務
19	時短勤務を柔軟に取れる環境作り	獣医学上の知識を必要としない業務
20	民間企業なのでわりと女性社員に対しての制度はいろいろと整備されている方ではあるが、畜産関係はなんだかんだ男社会なので、男性と同じだけのことを求められても正直困る。体力的にも難しい。女性であることへの理解が乏しい。	獣医学上の知識を必要としない業務
21	男尊女卑の改善及び女性上司によるパワハラ	獣医学上の知識を必要としない業務
22	臨床をつづけていくのは生活面を考えると難しいと判断し離職した。今の職場では獣医師免許が不要の仕事ではあるが、福利厚生などしっかりしているので特に不満はない。	獣医学上の知識を必要としない業務
23	獣医師に限ったことではありませんが、出産休暇育児休暇制度の整備、仕事内容に見合った報酬、子育てしながらでも働きやすい環境を整備が必要です。	獣医学上の知識を必要としない業務
24	小動物診療施設に勤務時、10年その病院に勤めていた先輩女性獣医師が出産休暇を機に首になったのを目の当たりにした。また卵巣腫瘍で同僚の女性獣医師が手術入院した際も療養に伴う休暇は与えられず、労働基準法の最低条件の日数しか与えられていなかった有給休暇を年度初めに全て消化せざるを得ない状況になっていた。（従業員を10名ほど雇っていたにもかかわらず保険料の会社負担分を嫌がって厚生年金にも加入していなかったため、傷病手当の支給がなく欠勤も出来なかったため。）労働基準法違反の勤務体系にも関わらず証拠を残したくないがためにタイムカードや出勤簿の作成を拒んでいた。等々、労基法、社会保障関係の法令違反が業界全体に横行している事実が改善する見込みがなく、雇用者側（複数個所の診療所に勤務したがどこも大差なかった）の意識の低さにうんざりして、このままこの業界で働き続けてもまともな雇用環境は望めそうにないこと、いつか身体を壊すことになりそうであったこと、結婚や出産を考えたらいつ首になるか	獣医学上の知識を必要としない業務

	わからないこと等、これ以上続けても不毛であると判断し公務員に転職した。	
25	人事異動で配属される職場が限られる（分野が狭い・配置人数が少ない）例えば、動物園に女性獣医師が複数人配属されてもいい。保健所や食肉衛生検査所に配属される女性獣医師の数も少ない。動物管理センターは昨年から増えたが、それまでは少なかった。	獣医学上の知識を必要としない業務
26	公務員は、男女格差を感じるものの、ある程度整備が整っていると思う。 診療関係では、出産、子育てがしやすい環境（休暇、パートなど）で働ければ良いと思う。小動物臨床の場合、雇用される側の待遇が著しく悪い。給料、休暇、社会保障、福利厚生等の整備が必要。	獣医学上の知識を必要としない業務
27	大学の最終コースが公衆衛生コースだったのですが、その後、公務員になりましたが、臨床をやりたい気持ちはやはり残っているので、なんとか臨床に戻りたいとこのための、働きながら思い出せる履修施設があればいいのにな…	獣医学上の知識を必要としない業務
28	女性獣医師という女性枠ではなく、医師や歯科医師と同様の地位の確保をしてほしい。	獣医学上の知識を必要としない業務
29	託児所	獣医学上の知識を必要としない業務
30	出産休暇や育児休暇の制度はあるが、実際に取得できるか、またその後復帰できるか心配である。	獣医学上の知識を必要としない業務
31	再就職するための勉強会など、1度現場をはなれると、知識がおちるので、獣医学をいちから勉強できる場を作ってください。知識や技術がもどれば、自信がつき社会復帰も楽だと思います。	獣医学上の知識を必要としない業務
32	公務員獣医師の処遇改善	獣医学上の知識を必要としない業務
33	出産・育児期間中就業することは難しく、その間フォローする獣医師が院長だけとなり、負担が大きくフォローしきれない。休業中のみ他の獣医師に来てもらうことは到底できない。なので、出産＝辞職という形になってしまう。	獣医学上の知識を必要としない業務

34	現在の職場は育児休業や有給休暇が取り易く、子育てと仕事を両立しやすい職場であると思う。しかし、育児休業に伴う臨時職員の採用、給与支出の手続きや他の職員への仕事の負担軽減が十分カバーされているとは思えない部分もあり、休暇取得の際に心苦しく感じる。	獣医学上の知識を必要としない業務
35	育児や介護との両立が難しい。 育児や介護との両立について理解のある人もいることは助かるが、単なるわがままと受け取る人もいて、やはり肩身が狭い。	獣医学上の知識を必要としない業務
36	育児支援	獣医学上の知識を必要としない業務
37	臨床現場においては女性が働きやすい環境が全くなかったことで、女性でも体力的に仕事を継続できるよう、シフト制が確立されていると助かる。また、転職をする際に、自分の資格でどんな仕事ができるのか、どういった職があるのかが分からなかったことで、どんな道を選ぶのかもっと情報が欲しかった。現在の職場は女性が働けるよう非常に力を注いでいるので、臨床現場とは雲泥の差である。体力的に続けられるようなシステムがしっかりし、労働に見合った収入を得られるのであれば、臨床を続けていきたいかった。	獣医学上の知識を必要としない業務
38	育児短縮勤務のフレックスタイム制で働いています(1時間短縮)。時間の選択が1時間、2時間しかなく変更にも時間がかかり回数制限もあるため、もっとフレキシブルに状況に応じて勤務時間を変更できる制度を希望しています。	獣医学上の知識を必要としない業務
39	時代とともに整備されてきていると思われるが、出産・育児期の代替え職員の確保は未だ難しい状況。	獣医学上の知識を必要としない業務
40	臨床や畜産系の仕事は家庭との両立が難しいため、行政職につきました。行政職の中でも保健所設置市・中核市保健所は勤務地が1箇所なので通勤時間が短くてよい。	獣医学上の知識を必要としない業務
41	労働福祉の充実、労働安全の確保	獣医学上の知識を必要としない業務
42	臨床に就いたことがないのでわかりませんが、民間企業において特に「女性だから」という理由で差を感じたことはありません。むしろ、「女性のほうが優秀」と言われることが多いです。ただ、	獣医学上の知識を必要としない業務

	未だ男性のほうが多いのは、やはり育児等で働き方が変わるところにあると思います。そのことに不満を持っている女性が周りにはいないので、現状維持でよいのではないのでしょうか	
43	いったん辞めた後に続けることが難しい。 体調や体力などへの配慮がない。 短時間勤務の求人情報を入手出来る公の場所がない	獣医学上の知識を必要としない業務
44	男尊女卑の考え方を改める。NOSA I 団体にもかかわらず、女性にお茶くみや洗濯をさせることが当然になっている。仕事を与えない上に、能力を認めない状況がある。助けて欲しい。	獣医学上の知識を必要としない業務
45	子育ての支援（保育所の送迎のための時間の確保）	獣医学上の知識を必要としない業務
46	就業環境に関しては、民間企業と動物病院では雲泥の差がある。大学はこの現実を学生にきちんと説明し、小動物臨床以外の職業選択肢についても積極的に紹介すべき。動物関連でなくても、獣医師の知識は必ず役立つ。民間企業での獣医師の活躍なくして獣医師の地位・待遇向上と獣医療の発展はありえない。	獣医学上の知識を必要としない業務
47	小動物分野以外で獣医師が活躍できる場を 大学で臨床系の研究室ではなかった学生が就職する際、動物病院で適切な研修や就職支援をしてほしかった。	獣医学上の知識を必要としない業務
48	育児期間などは、お休みがとりやすい環境がほしかった。	獣医学上の知識を必要としない業務
49	育児休暇中の厚生年金 獣医師でない上司の理解不足（ひがみ等によるもの） 保育室等会社で完備して欲しい	獣医学上の知識を必要としない業務